中学校 × 数学

数学どこが変わる？

まず現行と次期をマーカーで比べ、そのあと現行の解説（公式PDF）を読めます。

変わる所 5項目　解説PDF 1件



10秒でいうと

数学の全体像や社会とのつながりを学ぶ「数学ガイダンス（仮称）」を新設する案。証明も充実

中学校の数学は、「数学ガイダンス」を新しく設ける方向です。数学の全体の見取り図や、数学と社会・職業のつながりを学ぶ内容です。論理的・批判的に考える力（クリティカル・シンキング）のため、証明などの学習も充実する方向です。内容は小学校から高校の数学Ⅰまで、共通の6つの分野で整理する案です。学年をこえた学び直しもしやすくする方向です。

どこが変わる？現行⇔次期（中学校）

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強調される言葉　~~赤の取り消し線~~＝現行から消える・変わる言葉

学習内容の区分の仕方

現行

小学校算数・中学校数学は「領域」、高校数学は「項目」という名前で区分。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

小学校算数～高校数学Ⅰまでを、共通の**6つの「分野」**（数と式、図形、変化と関係、データと確からしさ、**論証**、**社会を読み解く数学**）で整理し、さらに「区分」に分ける方向。

P167 P170

見方・考え方

現行

事象を「数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え」、「論理的、統合的・発展的に考える」こと。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「事象や**言説**を**数理の視点**から捉え、論理的、統合的・発展的、**批判的**に考察すること」。小・中・高で文言を統一する案。

P169 ※現行・改訂案の並記は資料編m2 P183（算③）。「批判的」は建設的な目的の意味と解説で示す

中学・高校の「数学ガイダンス」

現行

新設の内容のため現行の対応する記述なし（本文では入学時の「数学開き」の実践を参考にするとある）

→

次期（審議まとめの案・告示前）

数学全体の**見取り図**と、数学と**社会・職業との関係**を学ぶ内容を中学校と高校（数学Ⅰ）に**新設**する方向。総授業時数は増やさないことが前提。

P167 P171

数学的活動の位置付け

現行

これまでの学習指導要領で、
算数科・数学科の学習過程として
位置付けられてきた。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「数学的活動」を個々の学習内容として規定するのではなく、
教科全体を通じて充実に
取り組む旨を規定すべきとされた。

P178

評価規準づくり

現行

各学校が、内容のまとまりごとの
評価規準、単元の目標、単元の
評価規準を作成。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「内容のまとまりごとの評価規準例」は**国が示し**、学校での**作成は不要**にする方向。算数・数学の「内容のまとまり」は**「区分」ごと・学年ごと**の「内容」とする方向。
単元の目標がそのまま単元の
評価規準になる考え方。

P179

現行の解説を読む（公式PDF）

いまの中学校の数学の解説です（文部科学省のPDFが新しいタブで開きます）。

PDF **数学編**
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編

学習指導要領の本文

PDF **中学校学習指導要領（平成29年告示）**
全教科の目標・内容（この教科は第2章）

中学校の数学の指導案（試案）



中 数学 3年

標本調査

本時のねらい 「調査によると」という主張について、母集団、標本の選び方、標本の大きさに着目して批判的に考察し、主張が妥当かどうかを判断するとと…

指導案を見る →

もっとくわしく

数学の変更点（くわしく） 新旧比較（全校種） 中学校の先生へ
資料室（中学校のほかの教科）

出典：中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）。P○ は本体PDFのページ、資料P○ は資料編のページ（クリックで

該当ページが開きます）。